

さくら通信



琵琶湖岸(草津)



特集

さくら通信は院外広報誌へ

INDEX

1 | 特集：さくら通信は院外広報誌へ

3 | 委員会紹介：教育委員会

2 | トピックス：

4 | リレーコラム

作業療法参加者のリアルな1週間に密着！！

※1部は院内 / 2部はフェイスブックにて

さくら通信は院外広報誌へ

院外広報誌とは、地域と病院の相互の信頼関係を築く
非常に大切なコミュニケーションツールです

醍醐病院の院内報として2011年4月に『さくら通信』が創刊され、早いもので7年目、今回で26号を発行することができました。これも、ひとえに皆さまのご協力があったのものと考えます。ありがとうございます。

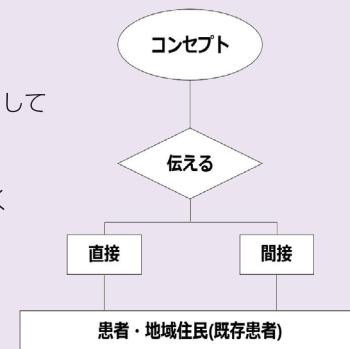
次号にあたる春号より、装いも新たにさくら通信を院外広報誌として発行します。今まで以上にスムーズかつ正確な情報提供を心掛け、風通しの良い組織づくりにも寄与し、地域と病院をつなぐ広報誌として発行したいと考えています。そのために編集者一同頑張っておりますが、全職員のバックアップがあって初めて定期的に発行でき、より良い院外広報誌になると考えます。

そこで皆さまに『さくら通信』というものをより良く知っていただくために、広報誌ができるまでの流れや、私たち編集委員の仕事について、お知らせしていきます。

Q&A

Q | 病院広報誌はどうして必要なの？

A 病院の「理念・コンセプト（＝考え方）」を地域の方に伝える方法として
直接的なもの▶ 広報誌・ホームページ・TV・新聞・雑誌など
間接的なもの▶ 職員一人ひとりを通じて、患者さんに伝えられていく
地域と病院をつなぐ、数少ない、なくてはならない媒体なのです。



Q | 広報担当者の役割は何ですか？

A 病院の伝えるべきコンセプトをしっかりと伝え、情報発信する役割があり、その方法のひとつに広報誌があります。例えば、
①病院のコンセプトを伝える
②多くの地域住民・患者さん・職員が知りたいと思っていること、また、病院からの情報を分かりやすく、丁寧に伝える
・どんな病院なのか、最新・専門の治療・設備はどんなものがあるのか
・どんな医師がいて、どんな治療をしているか
③変貌を遂げつつある病院の動きを正確に伝える
④病院を取り巻く「行政」や「他施設」の動き、連携などをタイムリーに伝える



さくら通信ができるまで



醍醐
病院

作業療法 参加者の リアルな一週間に密着!!

今回は、実際に作業療法を利用されている方がどのようなプログラムに参加しており、その中で作業療法士がどのような関わりをしているか、一週間を通して紹介します。

例 Aさん：これまで休職を何度か繰り返しながらも、仕事をしてきたが、今回の入院を機に退職となる。生活リズムの確立、活動性の向上を目的とし作業療法が開始となる。



入院中

朝起きて活動することを目的に参加開始。個人OTに参加し、手芸や読書に取り組みながら、日常での困った出来事や、問題点について担当スタッフと整理をするための個別面談を行う。また物事の捉え方にも偏りがみられたためMCT（メタ認知トレーニング）に参加。MCTは1クールで終了する。

退院後

独居の自宅へと退院。自宅での生活リズムを整えつつ、活動量と疲労度を確認しながら、参加日数を週4日半日に設定。再就労を目指して認知矯正法（NEAR）やストレスマネジメントへの参加を開始。ストレスマネジメントは1クール参加し終了となる。ストレスを溜めこみやすい自分の傾向に気付き、自分なりの対処法を模索しつつ、実際に事務職での再就労を目指し就労準備Gへ参加している。

月曜日

AM: NEAR

始めたころは、時間制限のある課題では1つでもミスをしてしまうと焦り、その後もミスが連鎖していたが、最近は焦らず落ち着いて対処できるようになってきた。

時間に追われると焦ってしまい、ミスをすることでさらに不安になりミスを繰り返していた。成功体験の積み重ねにより、自信がついてきたため、ミスしても落ち着いてその後も取り組むことができている。

Aさんの感想

火曜日

AM: 就労準備

今日は面接の練習をしました。どのように伝えれば、アピールになるのかよく分かりました。また、作法について再度学べてよかったです。

しっかりとできているものの、自己効力感は低い様子。他のプログラムも通して自己効力感を高めていき、自信を持ってほしい。

水曜日

休み

月2回（各1回）
・ジョブパーク
・ハローワーク
にて個人面談実施。



木曜日

AM: 認知リハ
(NEAR+SCIT※)

何か起こったときに、これまでにはいつも自分のせいにしてしまっていたが、これからは、バランスよく考えるようにしたいと思った。

原因帰属において、自責的な面が目立っており、これまでも上手いかないことがあると自分を責めていたよう。その思考方法が余計に自信を失うことにつながって来ていた様子。

金曜日

AM: 個人OT
(振り返り)

スタッフと1週間の振り返りを行うことで、今の状況を客観的に見ることができ、毎日少しずつも前進しているように感じられるようになってきました。

開始時に比べ自分の意見をしっかりと伝えることができるようになってきている。現実検討力もついてきており、スタッフへの質問も具体的になってきている。

土曜日

休み

彼氏とデートに出掛けたり、趣味である観劇に行くなど、余暇を楽しんでいる。



プログラム参加も安定して継続できている、生活リズムも整っている。疲労感も始めたころに比べ、低くなってきた。

能力も安定して発揮できるようになっており、考え方にも少し柔軟性も見られている。

今後は本人の希望である、事務職への再就労に向けて、他機関とも連携しながら具体的に支援を行っていく。

※SCIT…
社会認知ならびに対人関係のトレーニング

委員会紹介



教育委員会

教育目的

1. 醍醐病院の理念に基づく、質の高い看護サービスを提供できる人材の育成
すなわち、①心の健康に関するすべてのニーズに対応でき、②患者の早期社会復帰を推進することができる人材の育成
2. 患者・家族にとって安全・安心を提供し、専門性のある看護を実践できる人材の育成

教育委員会は毎月第3金曜日に開催しています。

教育委員は「新人研修プログラム」「看護研究」「現任教育」の3つの領域に分かれて活動しています。

新人研修プログラム



当院に就職して1年目の人を受講対象としています。看護学校卒業後1年目の人から精神科以外での臨床経験豊富な人、また当院以外の精神科病院などを経て就職した人など背景はさまざまです。研修プログラムの講師は経験豊かな看護師のみならず、患者さんのニーズに対応できる人材育成を意図して多職種のスタッフにも担当していただいています。

今年はバーチャルセッション（過剰な向精神薬の投与による鎮静状態を体験できる疑似体験システム）を体験してもらいました。抗精神病薬の鎮静作用が日常生活に与える影響を理解するのに有用なシステムだとい

われています。実際に体験してもらい、不快感から気分が悪くなる人もいました。「百聞は一見に如かず」ではありませんが、患者さんが体験する世界を理解することで、患者さんの理解が進むことを期待しています。

看護研究



毎年、各病棟では看護研究に取り組んでいます。中には初めて経験する人や苦手な人もいます。少しでも不要なプレッシャーを取り除けるように「看護研究の進め方（ガイダンス）」を講義として行っています。看護研究は年間を通じた長丁場です。各病棟のサポート担当者とも連絡を取り合い、随時対応できるように心掛けています。現時点までで3年続けて日本看護学会での発表にもつながっており、今後ともスタッフのモチベーションの向上はもとより、看護の質の向上に貢献できればと思います。

現任教育



過去のさくら通信（2016.vol.21秋号）でご紹介した現任教育は、各病棟から1名のスタッフが集まる病棟縦断チーム方式となり3年目に突入しています。それぞれのスタッフが取り組みたい課題を出し合い、1つのテーマに絞ります。今年も春から翌年1月の発表に向けて担当スタッフが毎月1回集合し、現任教育の作成に当たっています。

主役はあくまでも各病棟から選出されたスタッフです。現任教育に携わるスタッフが「楽しみながら学ぶ、発表を聞く人も含めて楽しみながら学べる機会にしたい」という願いを大切に個人「持ち味」を活かせ

るよう工夫をしながらサポートに徹しています。看護はチームワークで変わると考えています。現任教育の発表も同じだと考えます。それぞれが各個人の「持ち味」を理解し合うことで楽しみながら学習し、皆が楽しめる発表になることを目標に、今後も継続していきます。

私の好きなもの 1病棟 長澤 裕一

コメづくり！！



きっかけは妻の実家に同居したこと。お義父さんから自分の食べる分は自分で作れとお達しを受け、田んぼを手伝い始めたことが始まりです…。

はいそこの方、想像のとおり、サザエさんのマスオさんポジションです。拒否権はありません。

去年は本来1人乗りの田植え機に2人で乗り込み操作方法を習い、今年はなんとか1人で植えることができました…。操作はできるんです。問題は田植え機がまっすぐ進まないこと。

泥の中を進むので田植え機のタイヤはすごく細いんですが、その細いタイヤで泥の中の石を踏んでしまうので全然まっすぐ進まない、植わらない。ハンドルを戻そうとして近くばかり見てしまい余計にグネグネ曲がるばかり。そしてそのジグザグな植え方を見た周りの親戚の方々からのツッコミをお義父さんが受けます。お義父さんは表面上は笑っていますが…。

今年は田植え機の肥料調整バルブが壊れて、ザーザー流れ出る始末。足りなくなるので結局手で肥料をまきました。

田植えを始めて2年目になりますが、正直まだまだ全体の流れを把握できておらず、言われたことをやってる感じです。地域の水役（持ち

回りで水やりを管理する役割）もできていません。

ただ育った稲を見て、来年1年分これで米は大丈夫と思うと、やってよかったと感じるようになりました。また少しずつ育っていく様を見て、自分も仕事・プライベートともに精進できればなあ、としみじみ感じる今日このごろでございます。

田植え前



田植え後

